

早稲田大学 人間科学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	<p>問題形式は例年通り。</p> <p>[]の読解問題は、固有名詞や普通見かけない単語などがかなり含まれているので、少し読みにくいと思われるが問題の選択肢は紛れがないのでやや易化であろう。</p> <p>[]の前置詞を入れさせる問題は、熟語表現に特化した問題となった。レベルは例年通り。</p> <p>[]の正誤問題は、正解の箇所がかなりわかりやすくなったので、大幅に易化したと思われる。</p>

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
[]	読解問題 (内容一致問題)	例年通り、見かけない単語などがかなりあるので読みにくい。設問は本文のタイトルや趣旨を聞くものがかなり増えた。その代わりに、人科に伝統の数字の計算問題がほとんど消えた。選択肢はほとんど紛れがないので、慌てなければ迷うことはないと思われる。	標準
[]	文法問題 (前置詞を入れる問題)	動詞を中心とした熟語の知識問題が大半を占めている。また、受験生がまず知らないと思われる熟語がかなり含まれている。今年度に関する限り、前置詞問題というよりも純粋な熟語問題と考えたほうがよさそうだ。	やや難
[]	文法問題 (正誤問題)	例年に比べて正解の箇所はかなり簡単になった。大半が文法と語法を問うものばかりで、しかも基本に属している。ただ、正解以外の部分もあるので、いかに迷わずに正解にたどり着けるかがポイントであろう。	標準

〔総合コメント〕

問題形式は例年通りだが、いくつか押さえておくべきことがある。

[]は本文中に知らない単語などがかなりあっても、大まかな内容さえつかめれば設問は解けるということ。

[]は熟語、特に基本的な動詞をから成る熟語をしっかりやっていくこと。

[]は基礎から標準の文法や語法をしっかり覚えて、あとは過去問などで気づく訓練をしていくこと。以上である。